

修士論文(要旨)  
2018年1月

大学生の認知症の人への態度と関連要因の検討  
・非医療福祉系専攻の学生に着目して・

指導 長田 久雄 教授

老年学研究科  
老年学専攻  
216J6011  
森下 久美

Master's Thesis (Abstract)  
January 2018

Factors Associated with Attitudes towards people with dementia for University students  
: Focusing on Students in Non-Medical or -Welfare Fields

Kumi Morishita  
216J6011  
Master's Program in Gerontology  
Graduate School of Gerontology  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Hisao Osada

## 目次

I. はじめに.....	1
1. 研究背景.....	1
2. 研究の目的.....	1
II. 方法.....	1
1. 調査対象者と調査方法.....	1
2. 調査内容.....	1
3. 統計解析.....	1
III. 結果および考察.....	1
V. おわりに.....	2
引用文献	

## I. はじめに

### 1. 研究背景

我が国は人口の深刻な高齢化に伴い、認知症患者数が著しく増加している。その人口は 2012 年時点で 462 万人に達し、2025 年には推計 700 万人に達すると報告されている<sup>1)</sup>。今後の人口動態および認知症の人を取り囲む社会を考慮すると、医療福祉領域だけでなく多領域の若者が認知症の人への理解を有することは喫緊の課題である。そしてその教育的介入に向け、現代の若者が認知症の人をどのように捉えているのかおよびその関連要因を明らかにすることは意義深いといえる。

### 2. 研究の目的

本研究では、非医療福祉系専攻の大学生を対象とし、認知症の人への態度と先に関連性が報告されている認知症の人との交流、認知症に関する知識、マスメディアによる認知症に関する情報に触れる頻度、エイジズムを用いモデルを構築し、その妥当性の検討を行った。

## II. 方法

### 1. 調査対象者と調査方法

東京都内の A 大学の非医療福祉系(医療、福祉、心理関連を除く)の講義を受講する大学生を対象とし、医療福祉系専攻および関連ゼミナールに所属する学生、留学生は分析段階で除外する。調査はアンケートを用いた自記式調査を実施し、対象者に研究の趣旨を書面・口頭で説明し協力を依頼し、その上でアンケートを配布した。アンケートの配布・回収期間は、平成 29 年 9 月 27 日～10 月 9 日だった。本研究は桜美林大学研究倫理委員会の承認(No.17020)を得て実施した。

### 2. 調査内容

調査内容は認知症の人への態度、エイジズム、認知症に関する知識、認知症に関するマスメディアの情報との接触頻度、認知症の人との交流経験、基本属性である。

### 3. 統計解析

以下の項目を IBM SPSS statistics 24.0 および AMOS 24.0 を用いて行った。

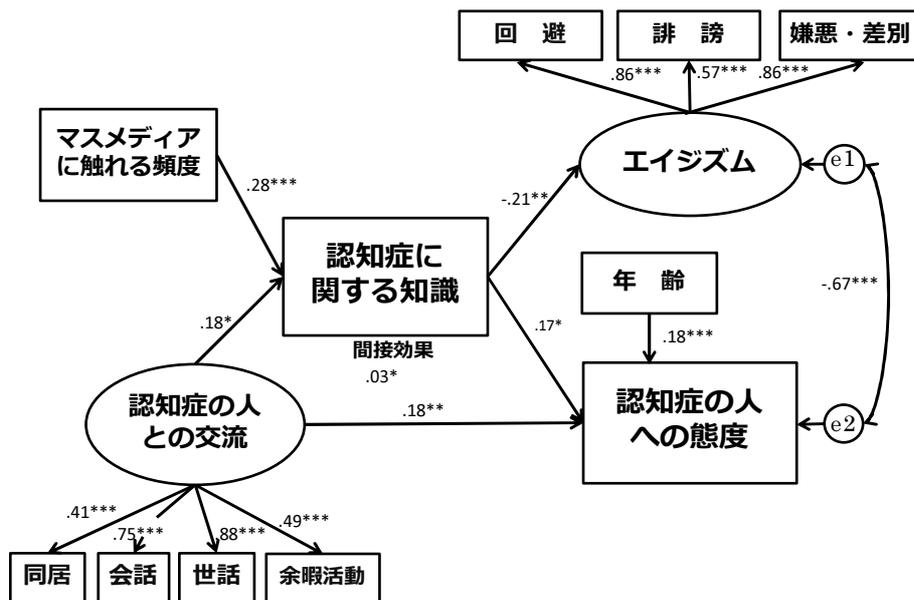
- (1) 各項目の信頼性を Cronbach の  $\alpha$  係数を算出し検討。
- (2) 各変数間の相関関係を Pearson の相関係数から検討。
- (3) モデルの適合度の検討
- (4) ブートストラップ分析により間接効果における有意性の検証。

## III. 結果および考察

調査対象者 328 名から回収できたアンケート 243 通(回収率 74.1%)から、医療福祉系専攻の学生 1 名、留学生 48 名、欠損値が著しく目立つ 3 通を除外した計 191 名について分析を行った。

モデルの適合度およびパスの有意確立を参考に、モデルの修正を行い最適モデルの構築をした(図 1)。本研究から総じて次の 3 点の知見が得られた。1 点目にメディアによる認知症に関する情報に触れる頻度が高い大学生は認知症に関する知識が高く、認知症の人への受容的態度を

有する。しかし知識内容および報道内容に起因する可能性が高いため、今後その内容の検討が求められる。2 点目に認知症の人との交流経験を有する大学生は認知症に関する知識が高く、認知症の人への受容的態度を有する。交流の内容としては会話や世話をした経験が最も強い関連性を示しており、今後非医療福祉系専攻の学生においても認知症の人との親密な交流を可能とする機会の設定が求められる。3 点目に認知症に関する知識を有することがエイジズムの軽減につながる。とりわけ認知症に関する知識が、高齢者との接触を回避する態度および高齢者の排除を支持する嫌悪・差別の態度の変容に効果が期待できることが示された。



CMIN/DF=1.353, GFI=0.954, AGFI=0.925, CFI=0.973, RMSEA=0.043

値は標準化係数, 非有意であったパス, 外生変数における誤差は省略

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

図 1 測定不変モデルによる共分散構造分析の結果

## V. おわりに

本研究の限界と課題は次の 4 点である。第 1 に、本研究対象は 1 校の大学の学生に限られている。したがって本研究結果を一般化するには更なる検討が必要である。第 2 に、本研究は横断研究であり、態度との因果関係については言及できない。今後さらに多くの要因を調整した縦断的検討が求められる。第 3 に、本研究では注目した関連要因の細部への追及が不十分である。マスメディアの報道に関しては、頻度のみでなく、報道の内容およびそれに対する態度を明らかにする必要がある。認知症の人との交流経験に関しては、交流の状況およびその機会への態度を明らかにする必要がある。第 4 に社会的望ましさによる影響を考慮する必要がある。

## 引用文献

- 1) 内閣府:平成 29 年版高齢社会白書(全体版)第1章第 2 節(3):19(2017)  
([http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/pdf/1s2s\\_3\\_1.pdf](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/pdf/1s2s_3_1.pdf))  
(2017.5.8 取得).
- 2) 厚生労働省:認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン).  
(<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>) (2017.5.8 取得).
- 3) Elaine M.Eshbaugh:Gaps in Alzheimer's Knowledge Among College Students.Educational Gerontology,40:655-665(2014).
- 4) 塚本都子:大学生の認知症高齢者に関する教育に関連した研究動向と人材育成に向けた課題. 日本認知症ケア学会誌, 15(4):857-866(2017).
- 5) 認知症サポーターキャラバンホームページ  
(<http://www.caravanmate.com/>) (2017.5.8 取得).
- 6) 内閣府:「認知症に関する世論調査」の概要;3(2015).  
(<https://survey.gov-online.go.jp/tokubetu/h27/h27-ninchisho.pdf>) (2017.12.10 閲覧).
- 7) 岩淵干明, 田中国夫:社会的態度の構造的な研究;態度構造研究の概観. 社会学部紀要, 37:89-99(1978).
- 8) 村山陽, 小池高史, 倉岡正高, 藤原佳典:認知症啓発授業が小中学生の認知症高齢者イメージに及ぼす影響;テキストマイニング手法による分析. 認知症ケア学会誌, 12(3):593-601(2013).
- 9) 加藤知可子:高校生を対象とした認知症高齢者に対するイメージに関する検討. 老年看護, 36:133-135(2005).
- 10) 金高間, 黒田研二:認知症の人に対する態度に関連する要因;認知症に関する態度尺度と知識尺度の作成. 社会医学研究, 28(1):43-55(2011).
- 11) 藤原和彦, 小松洋平, 奥永盛太, 上城 憲司:高校生における認知症の知識と態度に関する予備的研究. 医学と生物, 157(6):1101-1106(2013).
- 12) 奥村由美子, 久世淳子:大学生の高齢者イメージに関連する要因;認知症高齢者と健常高齢者のイメージの比較. 日本福祉大学健康科学論集, 12:31-38(2009).
- 13) 中村勝喜, 高木初子:看護学生の認知症高齢者に対するイメージと影響要因の文献検討. 聖徳大学研究紀要 26 聖徳大学短期大学部, 48:93-99(2015).
- 14) 鳴海喜代子, 田中敦子:看護学生の認知症高齢者 image と認知症性高齢者観について. 埼玉県立大学短期大学紀要, 6:67-76(2000).
- 15) 吉本知恵, 横川絹恵:看護学生の認知症高齢者に対するイメージと看護観および影響因子. 日本看護福祉学会誌, 14(1):35-45(2004).
- 16) 田中敦子, 鳴海喜代子:認知症高齢者への看護学生の受容的感情とその影響要因に関する縦断的調査.埼玉県立大学紀要, 7:59-66(2005).
- 17) 西村美里, 大町弥生, 中山由美:認知症高齢者に看護学生が抱いた感情, 藍野学院. 22:12-21(2008).
- 18) 木村誠子, 片岡万里:看護学生の老年看護学実習前における認知症高齢者イメージの特性;一般高齢者と認知症高齢者に対するイメージの比較. 高知大学学術研究報告, 55:37-43(2006).

- 19) 草地潤子, 千葉京子: 老年看護学実習前における学生の認知症高齢者に対するイメージの変化. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 20:15-27(2007).
- 20) 吉本知恵, 横川絹恵: 看護学生の認知症高齢者に対するイメージの変化およびその影響体験. 日本看護福祉学会誌, 12(2):67-77(2007).
- 21) Butler RN : Ageism ; In The encyclopedia of aging. 2<sup>nd</sup> ed., ed. by Maddox GL, 35-36, Springer, New York (1995).
- 22) 保坂久美子, 袖井孝子: 大学生の老人イメージ; SD 法による分析. 社会老年学, 27:22-33 (1988).
- 23) 中野いく子: 児童の老人イメージ; SD 法による測定と要因分析. 社会老年学, 34:23-36 (1991).
- 24) 中谷陽明: 児童の老人観; 老人観スケールによる測定と要因分析. 社会老年学, 34:13-22 (1991).
- 25) 馬場純子, 中野いく子, 冷水豊, 中谷陽明: 中学生の老人観; 老人館スケールによる測定. 社会老年学, 38:3-12(1993).
- 26) 中野いく子, 冷水豊, 中谷陽明, 馬場純子: 小学生と中学生の老人イメージ; SD 法による測定と比較. 社会老年学, 39:11-22(1994).
- 27) Hiroshi Kojima: Determinants of Attitudes toward Population Aging in Japan. J. of Population Problems, 52(2):1-16(1996).
- 28) 古谷野亘, 児玉好信, 安藤孝敏, 浅川達人: 中高年の老人イメージ; SD 法による測定. 老年社会科学, 18(2):147-152(1997).
- 29) 山本明: マスメディア報道がリスク認知および被害者像に及ぼす影響に関する探索的検討, 社会心理学研究, 20(2):152-164(2004).
- 30) 田中悟郎: 精神障害者に対する住民意識; 自由回答の分析. 人間科学共生社会学, 4:31-41(2004).
- 31) 稲増一憲, 三浦麻子: 「自由」なメディアの陥穽; 有権者の選好に基づくもうひとつの選択的接触. 社会心理学研究, 31(3):172-183(2016).
- 32) 金高閻, 黒田研二他: 認知症の人に対する地域住民の態度とその関連要因. 社会問題研究, 60:49-62(2011).
- 33) 黒田研二, 金高閻, 鄭小華, 増井香名子: 認知症の人に対する地域住民の受容的態度とその関連要因. 社会問題研究, 60:27-34(2011).
- 34) Jordan, J.E.: Construction of a Guttman facet designed cross-cultural attitude-behavior scale toward mental retardation. American Journal of Mental Retardation, 76(2):201-219(1971).
- 35) WHO-WPA Geneva: Reducing stigma and discrimination against older people with mental disorders. a technical Consensus Statement:1-26(2002).
- 36) Robert N. Butler : Why Survive? Being Old in America. 1975. 内蘭耕二監訳, 老後はなぜ悲劇なのか? アメリカの老人たちの生活, 東京, メヂカルフレンド社;14-19.(1991).
- 37) 平川仁尚, 赤城勝幸, 岩岡ひとみ他: 中学生の高齢者イメージに関する調査. ホスピスケアと在宅ケア. 17(3):254-257(2009).
- 38) 内閣府: 平成 15 年度年齢・加齢に対する考え方に関する意識調査結果の概要

- ([http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h15\\_kenkyu/gaiyou.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h15_kenkyu/gaiyou.html)) (2017.12.22 取得).
- 39) Crowne, D. P., & Marlowe, D.: A new scale of social desirability independent of psychopathology. *Journal of Consulting Psychology*, 24;349-354(1960)..
- 40) 日本認知心理学会編: 認知心理学ハンドブック. 第 1 版. 有斐閣ブックス. 東京: 308-315 (2013).
- 41) 神奈川県社会福祉協議会: 平成 21 年度介護業界および介護職に対する若者のイメージ調査報告書; 15-26. (<http://www.knsyk.jp/s/shiryuu/pdf/1.pdf>) (2017.12.20 取得).
- 42) 原田謙, 杉澤秀博, 杉原陽子, 山田嘉子, 柴田博: 日本語版 Fraboni エイジズム尺度 (FSA) 短縮版の作成; 都市部の若年男性におけるエイジズムの測定. *老年社会科学*, 26 (3): 308-319 (2004).
- 43) 小塩真司: はじめての共分散構造分析; Amos によるパス解析. 東京図書, 110-111 (2008).
- 44) 渡部洋: 心理学統計の技法. 福村出版株式会社, 160-161 (2004).
- 45) 村上宣寛: 心理尺度のつくり方. 北大路書房, 京都府 (2006).
- 46) 内閣府. 平成 29 年版高齢社会白書 (全体版). 第 1 章高齢化の状況: 第 2 節 3  
[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1\\_2\\_3.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1_2_3.html)  
(2017.12.5 閲覧)
- 47) 高野真由美: 看護学生のエイジズムが老人とのコミュニケーション時の情緒状態に与える影響. *川崎市立看護短期大学紀要*, 15 (1): 47-52 (2010).
- 48) 吉田浩二, 辻麻由美, 原田文子, 大山祐介, 竹嶋純平, 宮原春美: 看護学生のエイジズムに関する研究. *保健学研究*, 30: 39-46 (2017).
- 49) 林幹也: 社会心理学における現在の態度研究とその展望, *明星大学心理学年報*, 29: 65-72 (2011).